

電気眼振図		S128		
電気眼振図		担当部署		
電気眼振図		生理		
<b>検査オーダー</b>				
患者同意に関する要求事項		同意書あり		
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→生理→平衡機能検査→電気眼振図：皿電極4誘導以上の記録を行った場合(各科で実施)		
	2	電子カルテ→指示①→生理→平衡機能検査→電気眼振図：その他(各科で実施)		
	3			
	4			
	5			
検査に影響する臨床情報		該当なし		
検査受付時間		8:45~17:30		
<b>検体採取・搬送・保存</b>				
患者の事前準備事項		特記事項なし		
検体採取の特別なタイミング		特記事項なし		
検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位
1 人体	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
検体搬送条件		ベッド不可		
検体受入不可基準		検査に同意を得られない患者		
保管検体の保存期間		特記事項なし		
<b>検査結果・報告</b>				
検査室の所在地		病院棟 3階 中央検査部		

測定時間		各科による				
生物学的基準範囲		該当なし				
臨床判断値		該当なし				
基準値					単位	特記事項なし
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	
パニック値	高値	該当なし				
	低値	該当なし				
生理的変動要因		該当なし				
臨床的意義		<p>眼振を含めた各種の眼球運動の記録を残すことができ、眼振を定量的に解析、閉眼や暗所開眼状態の眼球運動の記録を行うことが可能である。1)自発眼振の見分け方—眼振緩徐相の検討、2)前庭性眼振の緩徐相速度の計測、3)中枢性・自発眼振の検索、4)先天性眼振の鑑別、5)中枢所見としての注視方向性眼振の検出、6)小脳障害を示唆する rebound nystagmus について、7)異常眼球運動の検出、などの検査を行うことが可能である。</p>				